

神奈川県における旧石器時代の遺構（その1）

－漸移層～L1H層－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトでは、神奈川県内の遺跡資料の集成を基礎として編年研究を行い、昨年度は遺跡間接合の問題を検討してきたが、本年度からは旧石器時代の遺構について検討することとした。それは、近年、礫群、炭化物集中箇所等従来から知られていた遺構に加えて、清川村サザランケ遺跡で炉址、相模原市田名向原遺跡で住居状遺構、横須賀市打木原遺跡では陥し穴とみられる土坑等が発見され、人為的な掘り込みや礫配置をもった確実な遺構がみられるようになり、現段階での整理を行っておく必要があると考えたからである。

とりあげた遺構は、礫群、炭化物集中箇所、炉址、配石、住居状遺構、土坑、ピット等で、旧石器時代から一部縄文時代初頭の遺構について集成・分析し、その内容や変遷、ブロックとの関係等について検討する基礎としたいと考えた。本年度は、漸移層からL1H層にかけて集成を行った。

（御堂島 正）

漸移層からL1H層の遺構について

礫 群（第1図1～6・第2図1～3・第1表）

本遺構は31遺跡129事例を数え、漸移層～L1H層では最多の遺構である。長軸は0.2～15.4mの範囲にあり、その平均は2.91mである。構成礫数の平均は21（18、以下括弧内で示す数字は接合個体別数）で、分布の状態は密集9、集中42、やや集中8、散漫56、やや散漫2となり、集中するものと散漫なものが半々であるといった傾向が窺える。また集成データからは大半のものが被熱に関わるものと判断され、石器がその中に含まれるものが25例あり、全体の約1/5を占める他、礫群もしくはブロックとの関連を指摘しうるものが約半数に及ぶ。

層位毎に長軸と構成礫数の平均を比較すると以下ようになる。FB層下部では9礫群中、長軸の平均値は3.4mで、構成礫の平均数は9点となる。漸移層では5礫群中、長軸平均値は2m、構成礫平均数10点となる。L1S層中では13礫群中、長軸平均値2.2m、構成礫平均数は16（9）点となる。B0層中では26礫群中、長軸平均値が4.8m、構成礫平均数は28（24）点となる。L1H層中では45礫群中、長軸平均値が2.2m、構成礫平均数は26（23）点となる。これらのことから、FB層下部とB0層を除く長軸の平均値は2～2.2mにとどまるにもかかわらず、構成礫の平均数はB0層を境に上層になるに従い、減少する傾向が窺える。

炭化物集中（第2図4～6・第2表）

本遺構は11遺跡20事例を数え、漸移層～L1Hの各層で確認されている。長軸は0.5～6mの範囲にある。本遺構の中には住居状遺構に伴う炉の可能性が指摘されるものや、散漫な分布を示すことから遺構として扱い難いものもある。また遺物との関係を積極的に見いだしがたい点为本遺構の特徴を示していると考えられる。

炉 址 (第3図1・2・第3表)

本遺構は2遺跡3事例を数え、B O層下部とL 1 H層中部で確認されている。サザランケ遺跡では、長軸は1 m、掘り込みの深さは0.15 mを測り、「コ」もしくは「U」字状に礫を配置した石囲炉も検出されている。

配 石 (第3図3～5・第4表)

本遺構は5遺跡12事例を数え、漸移～L 1 H層の間で確認されている。報告されている本遺構の構成礫数は接合しない状態では1～41点で、その平均は約12点である。接合状態では1～13点で、その平均は約6点となる。長軸は0.20～3.60 mの範囲にあり、その平均値は約2 mである。分布は散漫なものが大半であるが、これらの構成礫のうち、記載のあるものについては少なくとも被熱の痕跡が指摘される点で、漸移層～L 1 H層の礫群構成礫と共通する。また本遺構はその石材組成から在地系の河床礫で構成されている可能性が考えられる。石器との相伴関係が認められるものが3例、他の遺構との関連が認識されるものが4例ある。

住居状遺構 (第4図1～3・第5表)

本遺構は5遺跡6事例を数える。確認層位はF B～L 1 S層までであり、この内5例は縄文時代初頭とされるものである。長軸は約3～7 mの範囲で捉えられ、内部に柱穴を持つことが本遺構等を他の遺構と区別する目安となっている。炉址を持つものは、慶応義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡Ⅱ区の1例しか見受けられない。

土 坑 (第5図1～5・第6表)

本遺構は8遺跡12事例を数え、確認層位はF B層～L 1 S層までとされるが、この内の7例は漸移層の所産とされる。長軸は0.25～2.85 mの範囲にあり、その平均値は1.1 mである。この内、石器や炭化物等の遺物との関連が認められるものは3例程度である。平面形は楕円形を呈するものが大半を占めるが、円形や方形もある。断面形は、半円形・U字形・逆台形等、多様である。

ピット (第5図6・第7表)

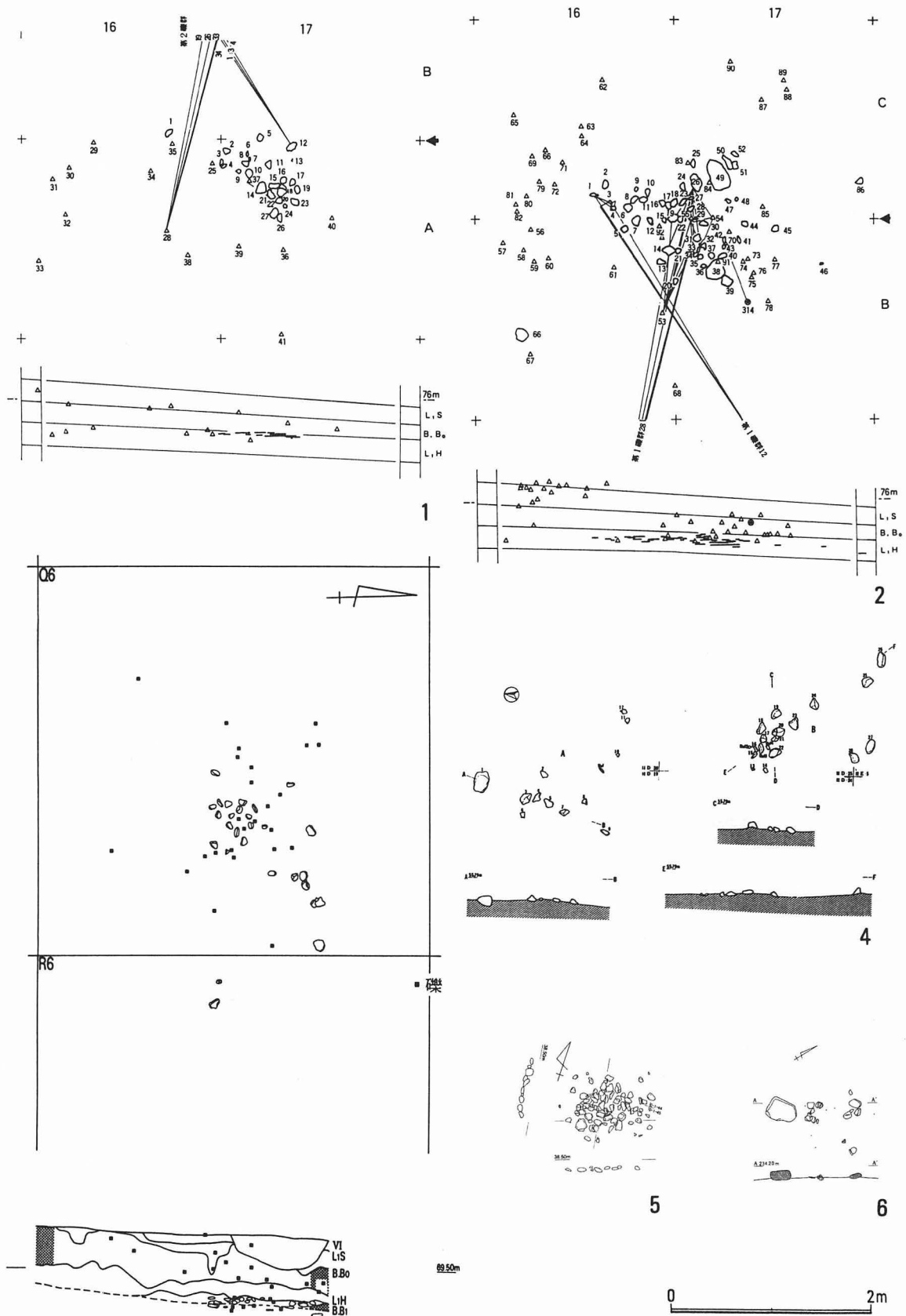
本遺構は3遺跡50事例を数え、F B層～L 1 S層で確認され、全て縄文時代初頭の所産とされる。長軸は0.13～0.57 mの範囲にあり、その平均は0.31 mで、深さは0.07～0.56 mの範囲にあり、その平均は0.23 mである。記載のあるものについて、平面形は、円形24、楕円形4で、円形が主体である。また、断面形は、逆台形21、U字形5、半円形1となり、逆台形が主体とされる。

デ ポ (第8表)

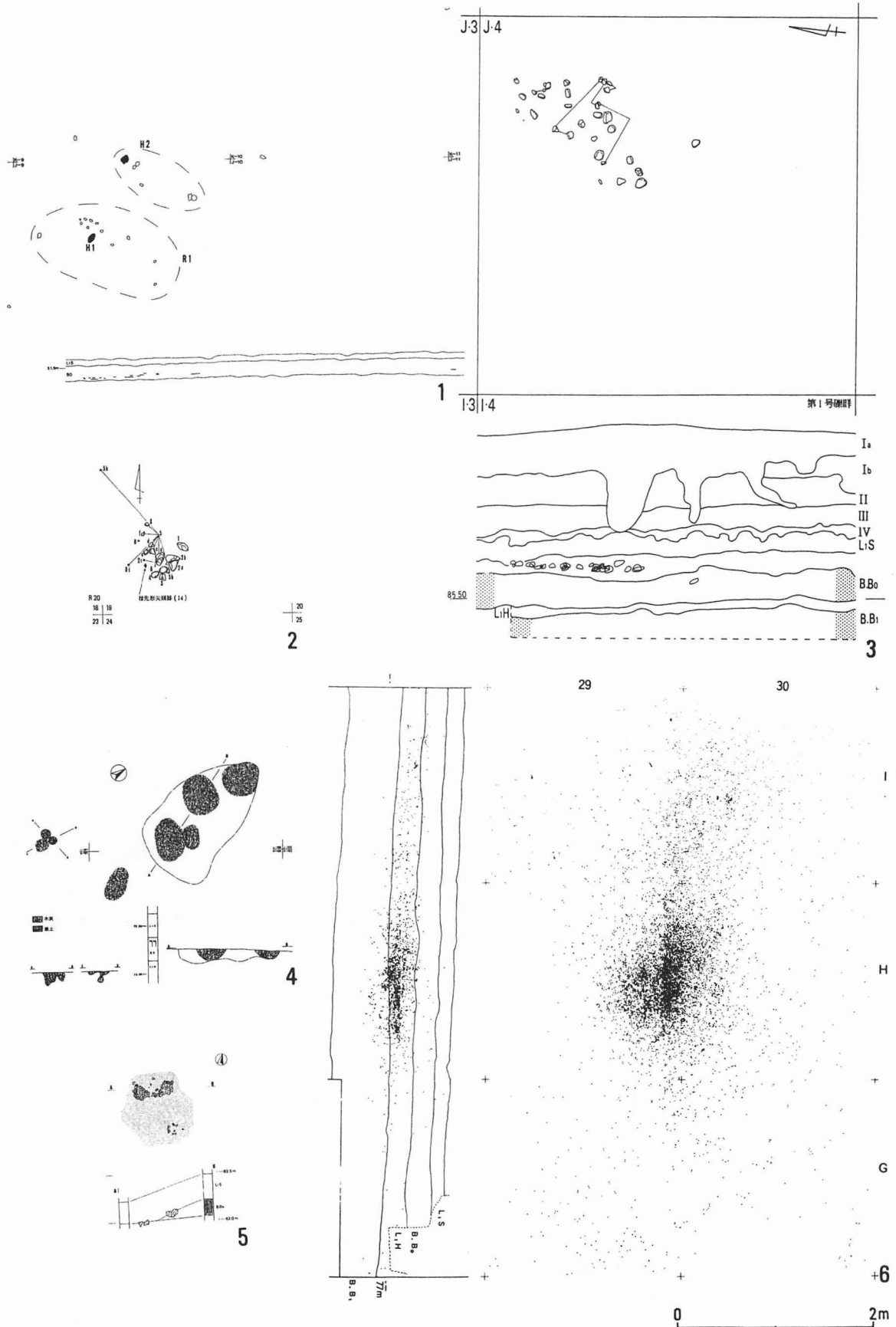
本遺構は2遺跡2事例が確認されている。確認層位はL 1 S層とF B層下部で、いずれも縄文時代初頭の所産とされる。遺物数は少なく、器種と石材において編りが見られるという特徴は共通する。とはいえ、下部に土坑を伴う例は吉岡遺跡群D区のみのものである。

以上が今回項目別に取り上げ、その傾向・性状等について記述した「遺構」である。また資料集成にあたっては、これまでの『かながわの考古学』で掲載された文献を基本とさせていただいた。 (井関文明)

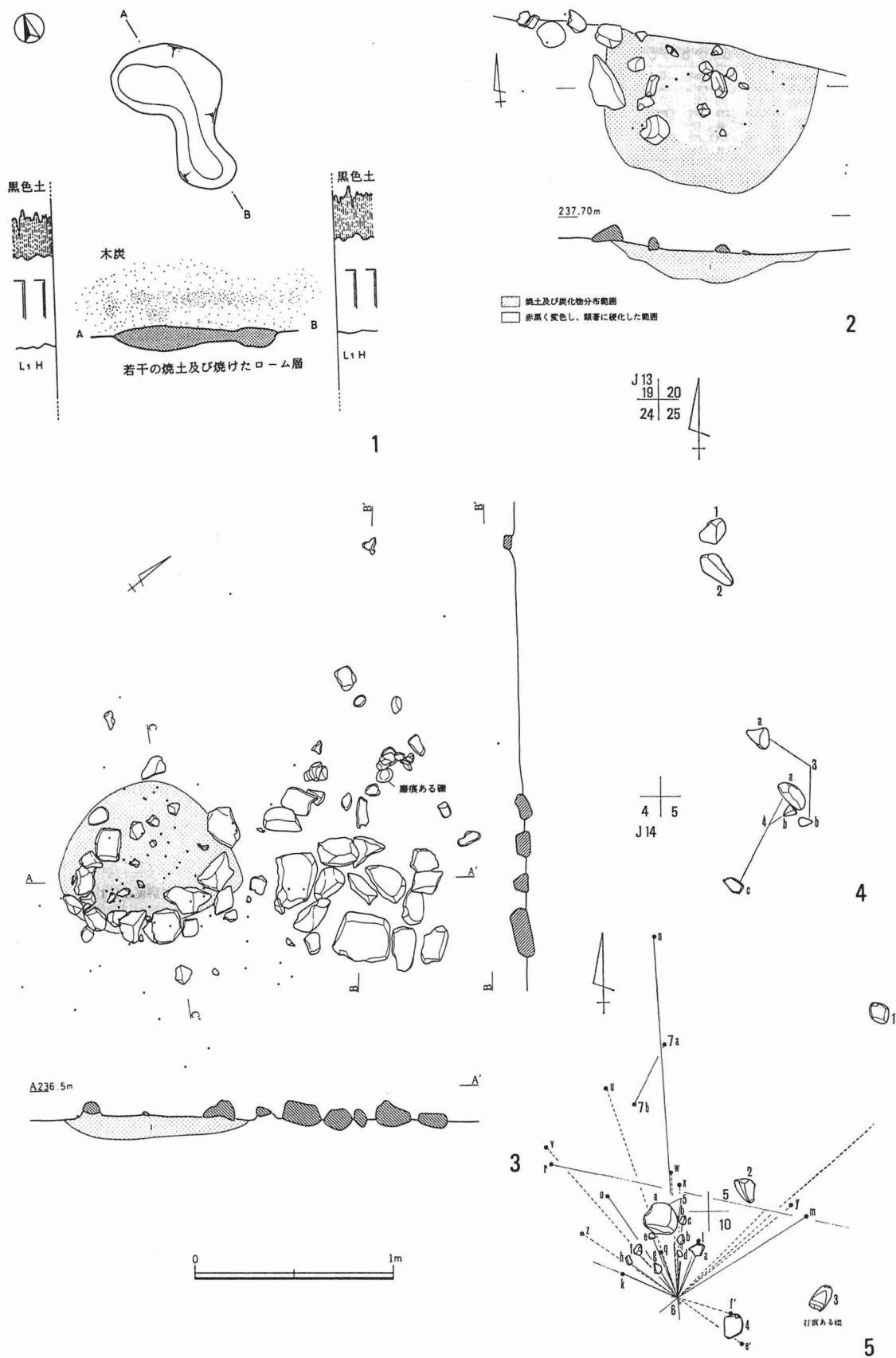
神奈川県における旧石器時代の遺構（その1）



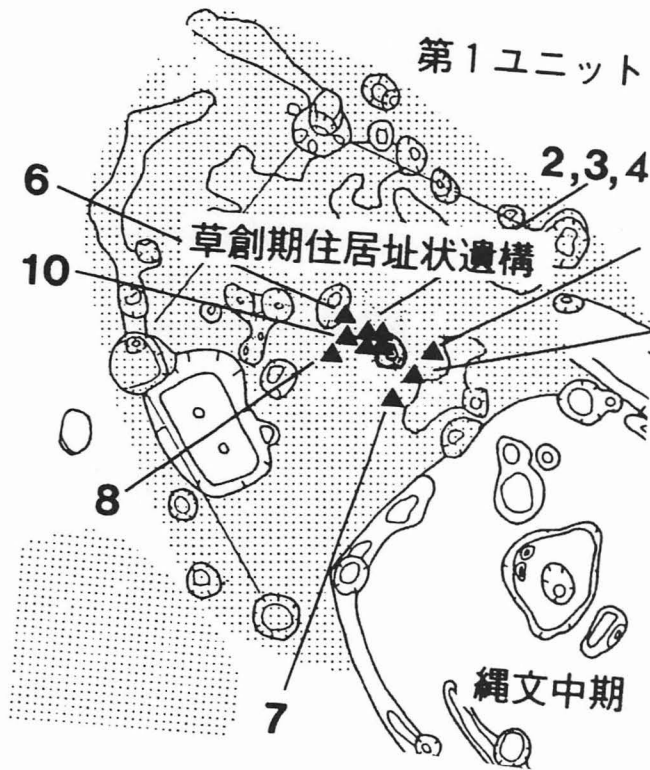
第1図 礫群（1．月見野上野1-Ⅳ、2．月見野上野1-Ⅳ、3．長堀北-Ⅳ、4．寺尾-Ⅱ、
5．上土棚南3次-Ⅰ、6．サザランケー-Ⅲ）



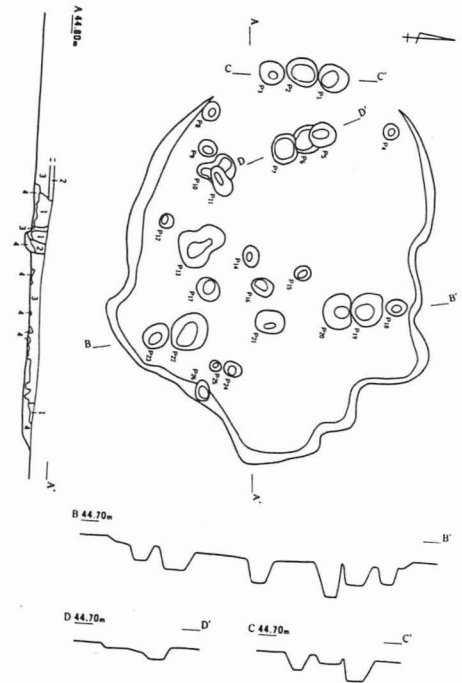
第2図 礫群、炭化物集中 (1. 柏ヶ谷長ヲサーⅢ、2. 栗原中丸Ⅰ、3. 相模原市No203、4. 長堀Ⅰ、5. 上草柳1Ⅰ、6. 月見野上野1Ⅳ)



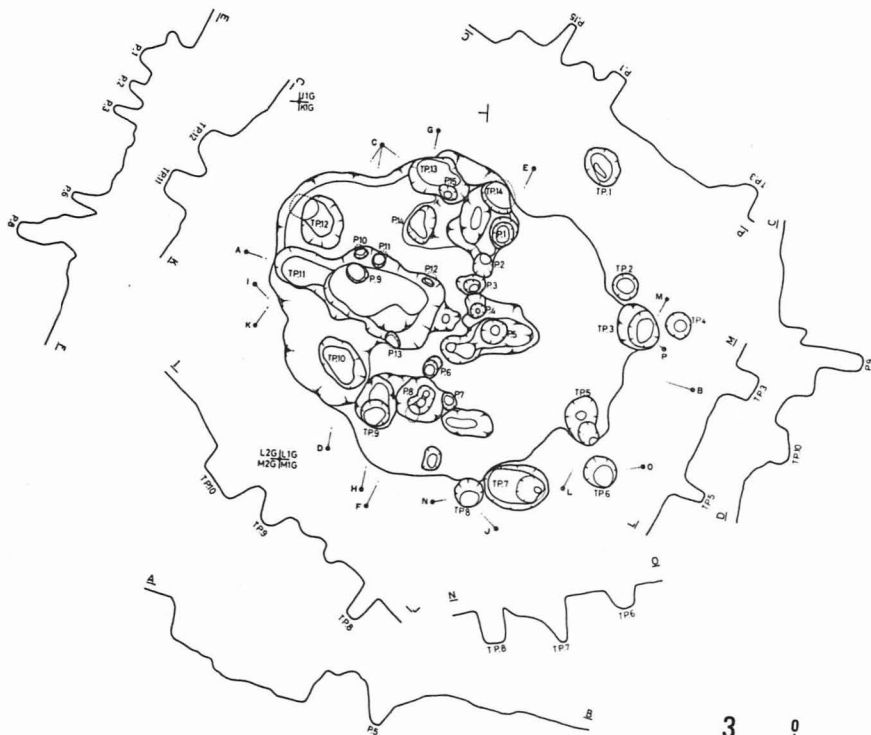
第3図 炉址、配石（上和田城山Ⅱ、2. サザランケーⅢ、3. サザランケーⅢ、4. 栗原中丸Ⅱ、5. 栗原中丸Ⅱ）



1



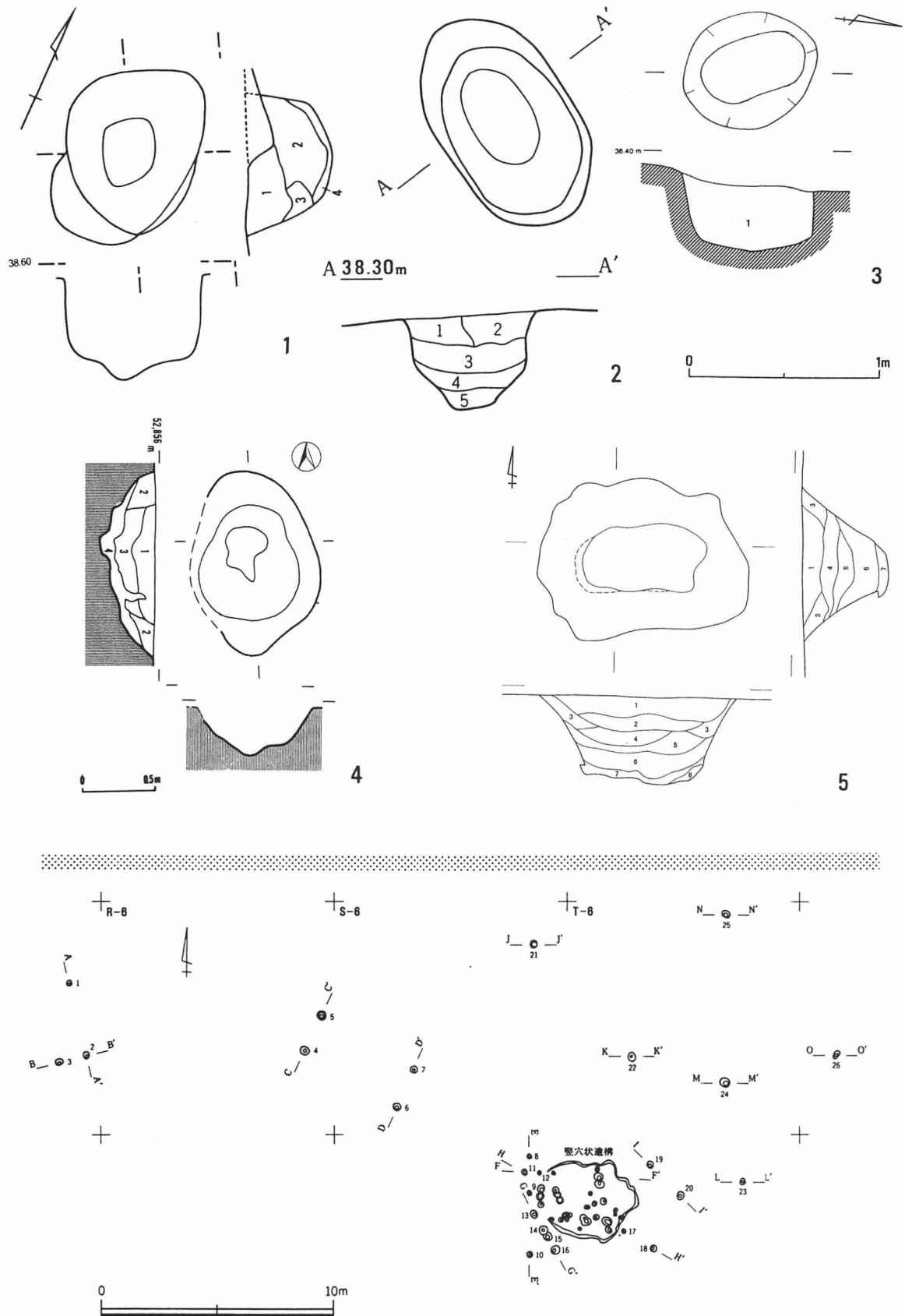
2



3

0 2m

第4図 住居状遺構 (1. 勝坂遺跡、2. 吉岡遺跡群A区、3. 上和田城山5区-II)



第5図 土坑、ピット（1. 代官山-I、2. 吉岡A区、3. 南葛野、4. 柏ヶ谷長ヲサー-I、5. 三ノ宮下谷戸-I、6. 吉岡A区

第1表 礫 群

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考 (共 伴 遺 物 等)
10	橋本	L1H- BB1U	II	礫群1	2.00	2.00	88	集中	赤化:53 破損:67	砂85、珪3	礫総重量5221g
10	橋本	L1H- BB1U	II	礫群2	1.00	1.00	46	集中	赤化:6 破損:11	砂42、珪2	礫総重量2302g
15	月見野上野 第1地点	L1S	II	礫群1	1.80	1.50	14(3)	散漫	赤化:ほとんど スス:あり	—	第24ブロックと重複 礫群2・4と接合
15	月見野上野 第1地点	L1S	II	礫群2	1.70	1.70	10(3)	散漫	赤化:ほとんど スス:あり	—	第20・21号ブロックと隣 接
15	月見野上野 第1地点	L1S	II	礫群3	2.80	2.00	49(6)	集中	赤化:ほとんど スス:あり	—	第5号ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1S	II	礫群4	2.00	1.80	23(3)	散漫	赤化:ほとんど スス:あり	—	第24号ブロックと重複 礫群1・2と接合
15	月見野上野 第1地点	BB0	III	礫群1	4.80	4.60	51	散漫	赤化:ほとんど スス:あり	凝(多量)、砂、安、 ホ	第2ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	BB0	III	礫群2	10.0	10.0	129	集中	赤化:多 スス:あり	凝(多量)、砂、ホ	第2ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群1	1.00	1.00	40	集中	赤化:全点 スス:あり	凝、砂、粘	第1・2号ブロックと重複 礫群2と接合
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群2	2.20	1.80	92	密集	赤化:あり スス:あり	凝、砂、安、粘	第36号ブロックと重複 礫群1と接合
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群3	1.30	0.50	20	集中	赤化:全点 スス:あり	凝、砂	第4ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群4	1.00	1.00	24	集中	赤化:大半 スス:あり	凝、砂	第10ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群5	2.70	2.30	33	集中	赤化:大半 スス:あり	凝、砂、閃	第6・7ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群6	1.50	0.40	12	集中	赤化:大半 スス:あり	凝	第17ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群7	2.30	2.30	5	散漫	赤化:大半 スス:あり	凝	第17・19ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群8	2.30	2.30	24	集中	赤化:大半 スス:あり	砂、凝	第19ブロックと重複 礫群11と接合
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群9	0.50	0.50	6	集中	赤化:大半	閃、凝	第19ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群10	1.00	1.00	13	集中	赤化:大半 スス:あり	凝、砂	第19ブロックと重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群11	2.00	1.00	32	散漫	赤化:大半 スス:あり	凝、砂	第20・21ブロックと重複 礫群8と接合
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群12	1.50	1.50	16	集中	赤化:大半	凝、砂	ブロックと重複しない
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群13	2.00	2.00	8	散漫	赤化:ほとんど 無 スス:ほとんど無	凝、砂	第15ブロックと重複 礫群14と接合
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	礫群14	1.20	1.20	25	集中	赤化:あり	凝、砂	第19・24ブロックと重複 礫群13と接合
17	月見野上野 第3地点	L1H	II	礫群1	1.60	0.80	18(9)	集中	赤化:全点 スス:ほとんど	—	第4ブロックと一部重複
17	月見野上野 第3地点	L1H	II	礫群2	3.30	1.30	16(13)	散漫	赤化:全点 スス:ほとんど	—	第4ブロックと重複
17	月見野上野 第3地点	L1H	II	礫群3	2.50	1.20	18(18)	散漫	赤化:全点	—	第2ブロックと重複
57	下九沢山谷	—	I	礫群	—	—	—	—	—	—	図から5基ほどに分かれ そうであるが、詳細不明
68	中村	BB0	II	1号礫群	8.00	5.50	79(10)	散漫	赤化:10点ほど	凝角礫、硬砂	1ブロックと重複
68	中村	BB0L - L1HM	III	1号礫群	4.50	4.50	13	散漫	赤化:全 スス・タール:一 部 剥落ヒビあり	硬砂、玄、閃	7～10ブロックと重複
68	中村	L1HM - BB1U	III	2号礫群	5.00	5.00	8(5)	散漫	赤化、ススは一 部	硬砂、玄、火山凝、 閃	12～14ブロックと重複
69	相模原市 No.203	L1SL -	—	第1号礫群	2.10	1.10	33	集中	赤化	不明	第1ブロックと重複
69	相模原市 No.203	BB0U	—	第2号礫群	0.80	0.50	3	散漫	赤化	不明	第2ブロックと重複
70	栗原中丸	L1SU U	I	礫群	0.70	0.70	17(8)	集中	赤化:16 スス:6 ヒビ割れ:16	硬砂3、凝角礫2、火 山凝1、粗凝1、粘1	—

神奈川県における旧石器時代の遺構（その1）

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考（共伴遺物等）
71	栗原中谷	BB0L	I	1号礫群	2	1	10	列状 集中	不明	不明	第1号ブロックと重複 細石刃4、石核1、剥片 6(黒、細凝、安など) 計11点
71	栗原中谷	BB0L	I	2号礫群	1	0	6	集中	不明	不明	—
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0U	II	礫群1	5	2	15	集中	記載なし	記載なし	石器集中と重なりなし
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0U	II	礫群2	+	7	18	集中	記載なし	記載なし	1号ブロックと重なる
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0U	II	礫群3	10	5	9	集中	記載なし	記載なし	1号ブロックと重なる
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0U	II	礫群4	6	3	7	集中	記載なし	記載なし	3号ブロックと重なる
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0L	III	礫群1	3	1	12	集中	記載なし	記載なし	1号ブロックと重なる 配石1を取り込む
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0L	III	礫群2	2	1	5	集中	記載なし	記載なし	1号ブロックと重なる 配石2を取り込む
83	相ノ原 第5地点	BB0	I	礫群	2	0	4(2)	—	—	—	—
85	長堀北	漸移層	I	集石1	4	2	24	散漫	赤化:あり	—	—
85	長堀北	漸移層	I	集石2	1	—	2	散漫	赤化:あり	—	—
85	長堀北	漸移層	I	集石3	3	1	6	散漫	赤化:あり	—	—
85	長堀北	漸移層	I	集石4	2	1	3	散漫	赤化:あり	—	—
85	長堀北	L1S	II	礫群1	2	2	6	散漫	赤化:全点	—	—
85	長堀北	L1S	II	礫群2	3	2	7	散漫	赤化:全点	—	第7ブロックと重複
85	長堀北	L1S	II	礫群3	1	0	4	散漫	赤化:全点	—	第7ブロックと重複
85	長堀北	L1S	II	礫群4	3	0	3	散漫	赤化:全点	—	第8ブロックと重複
85	長堀北	BB0	III	礫群1	3	3	4	散漫	赤化:全点	—	第2ブロックと重複
85	長堀北	BB0	III	礫群2	3	—	2	散漫	赤化:全点	—	—
85	長堀北	L1H	IV	礫群1	4	3	52	集中	赤化:全点	—	第1号ブロックと重複
85	長堀北	L1H	IV	礫群2	1	0	3	集中	赤化:全点	—	—
88	深見諏訪山	—	II	礫群1	—	—	—	—	—	—	—
89	深見神社南	—	I	礫群(集石)	5	3	44	集中	赤化:全点	—	炭化材も若干分布 礫は小指大
90	上和田城山	L1S	I	礫群1	2	2	22	散漫	赤化:なし	—	—
90	上和田城山	L1S	I	礫群2	3	1	21	散漫	赤化:なし	—	—
91	上草柳 第3地点西	L1H	II	礫群	2	1	29(16)	集中	赤化:大半	砂、砂礫、ひん、閃、	—
93	上草柳 第1地点	BB0	I	礫群1	4	4	7(3)	散漫	赤化:2個体	角礫、砂	—
93	上草柳 第1地点	BB0	I	礫群2	5	3	20(13)	散漫	赤化:3個体	砂6、ホ2、角礫1、黒 雲母安1、角閃安1、 安1、不明1	—
94	草柳中村	BB0L	II	1号礫群	2	—	2	散漫	赤化:2	—	—
96	寺尾	L1H	II	礫群2	1	0	9(5)	密集	赤化:8/9 スス:1/9 タール:1/9 破砕:1/9	細凝5、輝2、硬砂 1、安1	3ブロックと重なる
96	寺尾	L1H	II	礫群3	A0.70 B1.10	A0.20 B0.40	A5 B5	集中	赤化:A5/5 B2/5 スス:A1/5 B1/5 タール:Aなし B1/5 破砕:A2/5 B2/5	A:安1、硬砂2、細 凝1、粗凝1 B:粗凝2、輝1、不明 2	AとBに細分され、それ らは3mの間隔、4ブ ロックと重なる
96	寺尾	L1H	II	礫群4	A1.50 B0.70	A1.20 B0.40	A12 (7) B16 (12)	密集	赤化:A10/12 B12/16 スス:A6/12 B8/16 タール:A1/12 B2/16 破砕:A8/12 B7/12	A:火山凝3、玄2、 粗凝5、安1、粘1 B:輝6、火山凝4、粗 凝3、硬砂1、安1、 玄1	5ブロックと重なり、Aと Bに細分され、2mほど の間隔
101	吉岡 B区	漸移層	—	礫群	1	1	17	集中	赤化、スス、ター ル認められず	硬砂4、砂2、斑2、 安1、火山凝1、チ2、 中凝2、硬細凝1	文化層は草創期2 石器集中と重ならない 磨り石が1点共伴
102	吉岡 C区	—	—	1礫ブロック	1	0	4	密集	赤化、スス、ター ル、破砕:4/4	中凝4	文化層は草創期 石器集中とは重なりな し
102	吉岡 C区	—	—	2礫ブロック	3	2	4	散漫	赤化:1/4 スス:3/4 タール:3/4 破砕:3/4	中凝2、安2	文化層は草創期 石器集中とは重なりな し

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考 (共 伴 遺 物 等)
102	吉岡 C区	—	—	3礫ブロック	2.10	0.20	5	密集	赤化:3/5 スス:5/5 タール:5/5 破砕:1/5	砂2、安3	文化層は草創期 石器集中とは重なりなし
102	吉岡 C区	—	—	4礫ブロック	7.30	3.40	24	集中	赤化:20/24 スス:18/24 タール:18/24 破砕:20/24	硬細凝1、中凝3、火 山凝2、安1、砂7、輝 8	文化層は草創期 石器集中とは重なりなし
102	吉岡 C区	—	—	5礫ブロック	2.10	1.50	4	散漫	赤化:3/4 スス:4/4 タール:4/4 破砕:2/4	中凝1、火山凝1、ホ 1、砂1	文化層は草創期 石器集中とは重なりなし
102	吉岡 C区	—	—	6礫ブロック	7.20	2.80	11	散漫	赤化:6/10 スス:4/10 タール:4/10 破砕:10/10	硬細凝1、中凝2、粗 凝1、火山凝1、頁1、 安1、斑3	文化層は草創期 石器集中とは重なりなし
102	吉岡 C区	—	—	7礫ブロック	4.40	2.10	5	散漫	赤化:2/5 スス:2/5 タール:2/5 破砕:3/5	硬細凝1、中凝1、頁 1、砂1、斑1	文化層は草創期 石器集中とは重なりなし
102	吉岡 C区	—	—	8礫ブロック	0.60	0.30	5	密集	赤化、スス、タールがすべて認められる	中凝4、流1	文化層は草創期 微細剥離を有す剥片と 剥片が1点ずつ出土
109	代官山	漸移 層L	I	第1集中地点	—	—	9	—	すべて破損礫	—	—
109	代官山	漸移 層L	I	第2集中地点	2.00	0.80	9	散漫	破損礫:4 完形礫:5	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中1	—	—	—	—	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中2	—	—	—	—	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中3	0.45	0.40	3or4	散漫	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中4	0.75	0.65	4	散漫	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中5	1.00	0.75	10	集中	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中6	—	—	—	—	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中7	—	—	—	—	—	—	—
109	代官山	L1S- BB0	II	礫集中8	—	—	—	—	—	—	—
111	南鍛冶山	漸移 層U	縄	1号礫集中	1.20	0.90	6	散漫	赤化:3点(うち2 点は先端付近が 明瞭に赤化する 棒状礫) 破砕:4点	ホ1・砂1・閃1・閃もし くは閃ヒン3	遺物1点(打製石斧・ 玄)、構成礫の内2点に 接合関係が認められる
111	南鍛冶山	漸移 層U	縄	2号礫集中	2.60	1.50	32	散漫	赤化:7点 破砕:1/3が1 点、1/4が5点、 破片が26点	凝11・砂7・火山凝4・ 頁3・閃2・閃ヒン2・安 1・珪頁1・シルト1	構成礫の内21点に本遺 構出土礫を含めた接 合関係が認められる
111	南鍛冶山	漸移 層U	縄	3号礫集中	3.40	0.80	12	散漫	1/4～2/3程の 破砕礫が4点 破片が3点 完形ないしほぼ 完形が5点	閃ヒン2・砂2・凝2・流 1・安1・閃1・火山凝 1・シルト1・ホ1	遺物2点(磨石・礫器、 石材:不明2) 構成礫の内6点に本遺 構出土礫を含めた接 合関係が認められる
120	川尻	L1HM	III	1号礫群	1.60	1.10	46	—	赤化:多い	頁14、凝砂14、凝頁 9、砂8、ホ1	遺物7点(槍先形尖頭器 4(チ1・珪頁1・黒2)、R F1(硬砂)、UF2(黒 2))
121	風間	BB0	Ib	1号礫集中	4.20	2.90	59	集中	赤化:42 スス:2	砂23、泥2、珪泥2、 粘4、チ1(接合後の 数)	2号礫集中と接合関係 あり 1号ユニットと混在、磨 石2、敲石10含む(礫群 礫に転用)
121	風間	BB0	Ib	2号礫集中	4.20	2.40	48	集中	赤化:30 スス:2 タール:4	砂17、泥4、粘4、凝 3、チ2(接合後の数)	1号礫集中と接合関係 あり 石核1、敲石3含む(礫 群礫に転用)

神奈川県における旧石器時代の遺構（その1）

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考（共伴遺物等）
121	風間	BB0	Ib	3号礫集中	12.2	8.50	89	散漫	赤化:83 スス:15	砂40、泥3、珪泥1、 粘17、凝2、チ5(接 合後の数)	剥片3、石核2、礫器4、 磨石5、台石10含む(礫 群礫に転用) 3号ユニットと混在
121	風間	BB0	Ib	4号礫集中	4.00	3.00	16	散漫	赤化:14	砂7、泥1、粘8	—
128	宮ヶ瀬 サザランケ(No.12)	L1H	III	P1号礫群	0.70	0.70	27	密集	スス・タール:7 ひび割れ:6 剥落:3 赤化:20	粗凝5、中凝3、火山 凝1、安5、石閃1、他	台石1(中凝) 礫:完形2、一部破損5、 半欠品5、断片13
139	日向南新田	L1SL	I	1号礫群	1.30	0.90	15	密集	赤化:9 スス・タール:6 ひび割れ:9 火はね:1	硬砂1、細凝14	—
139	日向南新田	L1SL	I	2号礫群	3.30	4.00	14	散漫	赤化:10 スス・タール:2 ひび割れ:10 火はね:1	硬砂2、細凝12	—
157	古淵B	BB0	I b	3号礫群	3.10	0.60	5	散漫	全点被熱	安、砂	—
157	古淵B	BB0M	I b	4号礫群	3.10	1.50	15	散漫	赤化:ほとんど タール:少ない	安、砂	—
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	1号礫群	3.50	2.50	11	集中	—	礫4(斑・硬砂・火山 凝・砂)、礫片1(閃)	6点、礫器2(ホ)、敲石2 (斑・硬中凝)、剥片2 (ガラス黒安)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	2号礫群	2.60	1.50	3	散漫	—	礫3(火山凝2・粗凝)	—
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	3号礫群	6.00	2.80	11	集中	—	礫4(ホ1・砂1・火山 凝2)、礫片2(中凝 2)	9点、台石3(閃2・輝 1)、礫4(ホ1・砂1・火山 凝2)、礫片2(中凝2)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	4号礫群	4.50	3.30	10	集中	—	礫3(火山凝・閃・ 輝)、礫片1(輝)	6点、敲石1(中凝)、台石 2(硬細凝・閃)、礫器3 (斑1・ホ2)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	5号礫群	3.00	1.00	4	散漫	—	—	4点、礫器2(硬細凝・硬 中凝)、台石2(火山凝・ 閃)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	6号礫群	2.50	1.80	6	散漫	—	礫2(閃・輝)、礫片1 (砂)	2点、敲石1(砂)、RF1 (ガラス黒安)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	7号礫群	1.60	1.50	7	散漫	—	礫3(不明1・火山凝 2)、礫片1(砂)	3点、剥片3(ガラス黒安 2・ホ1)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	8号礫群	4.00	3.00	21	集中	—	剥片3(ガラス黒安2・ ホ1)、礫3(不明1・ 火山凝2)、礫片1 (砂)	3点、剥片3(ガラス黒安 2・ホ1)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	FBL	I	9号礫群	3.00	1.60	8	散漫	—	剥片5(硬細凝)、礫 片1(硬細凝)	5点、剥片5(硬細凝)
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	BB0M	III	礫群	4.00	4.00	28	集中	—	礫8(火山凝3・硬中 凝1・砂2・閃2)	20点、凹石1(硬中凝)、 残核1(硬細凝)、台石9 (火山凝2・輝1・閃6)、 敲石2(輝1・硬中凝1)、 礫器3(輝1・硬中凝1・ 閃1)、RF2(ガラス黒安 2)、剥片2(不明2)
321	上土棚南 第3次	L1H	I	礫群	1.10	0.80	115	密集	記載なし	記載なし	第4ブロックの北東部に 所在。第4ブロックはPo 3、Kn12、切断剥片4、 SS3、Pe2、RF4、UF 2、Gs1、Hs2(4)、As 1、F155、Cr4
322	下鶴間城山	—	I	1礫群	1.20	0.30	5(4)	—	破碎:1 完形:4	凝	—
322	下鶴間城山	—	I	2礫群	0.20		2(1)	—	被熱、破碎礫2 点が接合	—	—
325	月見野上野 第5地点	BBO M	II	1号礫群	3.30	1.20	11(5)	やや 集中	—	—	1号ブロック重複4点から 成る接合2例
325	月見野上野 第5地点	BBO M	II	2号礫群	6.00	2.20	5	散漫	—	—	—
326	月見野上野 第6地点	L1SM - BB1U	I	第10号礫群	1.80		2	散漫	完形:1	—	第1ブロックと重複
326	月見野上野 第6地点	L1HM	I	第1号礫群	3.30	1.40	34(13)	集中	—	—	第12ブロック重複 2号、7号礫群と接合
326	月見野上野 第6地点	L1HU -M	I	第2号礫群	4.80	4.20	46	やや 集中	—	—	1号、7号礫群と接合

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考 (共 伴 遺 物 等)
326	月見野上野 第6地点	L1H	I	第3号礫群	3.90	1.60	19	やや 散漫	破碎:1 完形:18	—	第2、3ブロック重複
326	月見野上野 第6地点	L1H	I	第4号礫群	2.90	2.60	11	散漫	完形:1	—	第11ブロックと重複
326	月見野上野 第6地点	L1HM	I	第5号礫群	3.40	1.60	22	集中	完形:6	—	第3・8ブロックと重複 2・5号礫群と接合有り
326	月見野上野 第6地点	L1S- L1H	I	第6号礫群	4.10		5	散漫	完形:1	—	第13ブロックと重複
326	月見野上野 第6地点	L1HL - BB1U	I	第7号礫群	2.60	0.80	3	散漫	完形:1	—	第7ブロック重複1・2号 礫群と接合
326	月見野上野 第6地点	BB0M - L1HL	I	第8号礫群	4.70	2.40	5	散漫	完形:3	—	第2ブロックに重複
326	月見野上野 第6地点	L1HM	I	第9号礫群	1.90		2	散漫	完形:1	—	—
328	月見野上野 第12地点	BB0	I	1号礫集中	2.30	1.70	44(34)	やや 集中	赤化:41、スス:2 破碎:67、完形:2	砂、閃、ホ、凝	2号礫群と接合2例有り
328	月見野上野 第12地点	BB0	I	2号礫集中	4.00	2.00	68(56)	やや 集中	赤化:61、スス:3 破碎:42、完形:2	砂、閃、ホ、凝	1号礫群と接合2例有り
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	1号礫群	2.50	1.30	24(8)	やや 散漫	赤化:23、スス: 3、破碎:23、完	砂、閃、礫、安	2号ブロック重複2号礫 群と接合
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	2号礫群	2.60	1.20	22(12)	散漫	赤化:22、スス:3 破碎:21、完形:1	砂、安	2号ブロック重複1号礫 群と接合
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	3号礫群	2.40	1.70	21(16)	やや 集中	赤化:20、スス:2 破碎:16、完形:5	砂:9、閃:3、凝:1、 礫:2、他:1	3号ブロック重複
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	4号礫群	2.40	1.40	37	やや 集中	赤化:37 破碎: 35、完形:2	砂:19、閃:4、礫:1	4号ブロック重複
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	5号礫群	1.30	0.60	10(9)	やや 集中	赤化:10、破碎: 4、完形:6	砂:4、閃:1、ホ:1、 礫:1、珪:1、他:1	5号ブロック重複6号礫 群と接合1例
328	月見野上野 第12地点	L1HU -M	II	6号礫群	1.10	0.50	17(11)	やや 集中	赤化:16、スス:5 破碎:12、完形:5	砂:9、凝:1、他:1	5号礫群と接合1例

第2表 炭化物集中

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	備 考 (共 伴 遺 物 等)
10	橋本		II	炭化物片集中ヶ所1	4.00	2.00	
10	橋本		II	炭化物片集中ヶ所2	3.00	2.00	
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	炭化物集中1	2.30	2.10	第32ブロックと一部重複
15	月見野上野 第1地点	L1H	IV	炭化物集中2	6.00	4.00	
33	代官山		IV	炭化物集中			
90	上和田城山	B0	II	4区Bブロック木炭集中	3.20	2.60	
93	上草柳 第1地点	B0	I	炭化物集中	0.70	0.65	
99	早川天神森	L1S	I	炭化物集中箇所	4.00	4.00	付近から石器の出土は無し
111	南鍛冶山	漸移層U	縄	2号炭化物集中	2.70	2.60	遺物1点 器種:剥片1 石材:不明1
111	南鍛冶山	漸移層U	縄	1号炭化物集中	2.30	1.90	遺物4点 器種:打製石斧2、剥片1、碎片1 石材:不明4
116	南葛野	漸移層UU	縄	1号炭化物集中	0.85	0.80	
116	南葛野	漸移層UU	縄	2号炭化物集中	0.90	0.75	
118	慶応藤沢校地 第7調査区	L1H	II	第1炭化物分布	2.50	2.40	遺構としては扱い難い L1H層を中心に、BB0層・BB1層にも広がる 分布:散漫だが、一部に密集部あり
118	慶応藤沢校地 第8調査区	BB0	II	第1炭化物分布	3.50	2.50	遺構としては扱い難い BB0層を中心に、L1H層～BB1層分布
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 II区		縄	1号炭化物集中	0.53	0.45	極弱い微細な炭化粒が散在 住居状遺構P10としたもの
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 II区		縄	2号炭化物集中	0.64	0.54	住居状遺構に伴う炉の可能性指摘 住居状遺構中央部に極微細な炭化粒が散在
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 II区	L1S中	縄	3号炭化物集中	0.33	0.12	炭化材は最も良好な部分で径5cm以上を測る丸 材状を呈す
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 II区	L1S中	縄	4号炭化物集中	0.54	0.32	炭化材は最も良好な部分で径10cm以上を測る 丸材状を呈す
132	宮ヶ瀬 南	L1S中	I	炭化物集中	2.00	1.60	中央部1.20×0.80mの範囲に集中
139	日向南新田	L1SL	I	炭化物集中部分	3.00	3.00	確認面から10cmほどレベルを下げると南北70cm ×東西80cmほどの範囲に縮小

第3表 炉 址

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	掘込み の有無	長 軸	短 軸	深 さ	備 考
90	上和田城山	BB0L	Ⅱ	炉址	—	—	有	0.80	0.45	0.15	1cm大の木炭を含む
128	宮ヶ瀬サザランケ(No.12)	L1HM	Ⅲ	P1号炉址	1.00	0.70	有	—	—	0.15	“コ”“J”の字に礫を配置した石囲炉 隣接してP1号配石
128	宮ヶ瀬サザランケ(No.12)	L1HM	Ⅲ	P2号炉址	1.00	1.00	有	—	—	0.15	北半分消滅。炉の西隣には幼児頭大の礫6点配置。敲石1

第4表 配 石

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	礫 数	分 布	礫 の 状 態	礫 群 石 材 組 成	備 考（ 共 伴 遺 物 等 ）
60	上溝6丁目	BB0U	—	配石	0.55	0.15	3	散漫			
70	栗原中丸		Ⅲ		1.90	0.60	4(3)	散漫	赤化:4 ヒビ割れ:1	硬砂3、凝角礫1	
70	栗原中丸		Ⅲ		1.90	0.50	8(4)	散漫	赤化:8 ヒビ割れ:8	火山凝1、安1、玄3、粗凝3	
70	栗原中丸		Ⅲ		2.60	1.50	7(3)	散漫	赤化:7 スス:3 ヒビ割れ4	硬砂7	
70	栗原中丸		Ⅲ		3.50	2.60	25(2)	散漫	赤化:25 ヒビ割れ22	硬砂19、粗凝2、細凝4	
70	栗原中丸		Ⅱ		3.60	3.60	41(7)	散漫	赤化:41 ヒビ割れ11	火山凝38、粗凝4、凝角礫4、硬砂4	構成礫の内1点は打痕礫ある礫(粗粒凝灰岩)
70	座間市 栗原中丸		—		2.70	0.70	4	散漫	全てくすんでい る	「使用されている礫は、い ずれも相模川のもので推 定される」	
74	柏ヶ谷長ヲサ		Ⅳ	配石							器種:細石刃・細石刃核・スク レイバー 石材:黒・砂・凝・玄
74	柏ヶ谷長ヲサ	BB0L	Ⅲ	配石2	0.20	0.20	1	散漫	記載なし	記載なし	1号ブロックと重なる、礫群1 の範囲内
111	南鍛冶山	漸移 層U	縄	2号配 石遺構	2.20	0.20 ～ 0.30	13	散漫 (弧 状)	赤化:1点 破碎:全点 (1/4未満9点)	凝4・火山凝3・閃ひん3・ 安1・珪頁1・シルト1	全ての構成礫に接合関係が 認められる。本遺構直下に1 号住居状遺構が検出されて いる。本遺構北隣より打製石 斧2、剥片1が出土。
111	南鍛冶山	漸移 層U	縄	1号配 石遺構	1.70	0.40	5	散漫 (弧 状)	赤化:1点 破碎:完形3 点・1/2以上2 点	砂2・閃ひん1・火山凝1・ ホ1	2点の構成礫に本遺構外出 土礫との接合関係が認めら れる。本遺構直下に1号住居 状遺構が検出されている。
128	宮ヶ瀬 サザランケ (No.12)	L1HU	Ⅲ	P1号配 石	1.50	1.00	20	集中	完形12、 一部破損3、 半欠1、断片4 スス・タール:5 ひび割れ:3 赤化:3	中凝8、粗凝2、火山凝5、 斑2、安2、硬細凝1	隣接してP1号炉址

第5表 住居状遺構等

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	深 さ	炉 址	柱 穴	柱 穴 数	柱 穴 規 模	備 考
67	勝坂	漸移 層中	—	住居址状 遺構	7.00	4.00	—	無	有	4	径40～50cm程、主柱穴4本、周辺の ピット含め16穴	
90	上和田城山	BB0	Ⅱ	5区 ローム層中 に構築され た遺構	4.00	3.20	0.20	無	有	15	径10～70cm、深さ10～70cm	遺構内外に 木炭の集中 がみられる。
100	吉岡 A区	FB～ L1S	—	竪穴状遺 構	4.00	3.50	0.15	無	有	26	[長軸*短軸*深さ、単位はcm] P1:34*31*27、P2:36*31*10、 P3:29*27*19、P4:18*17*18、 P5:30*28*15、P6:32*(30)*5、 P7:34*(30)*6、P8:22*18*9、 P9:20*18*12、P10:42*(27)*8、 P11:35*20*28、P12:6*15*15、 P13:54*40*20、P14:23*19*8、 P15:18*17*12、P16:25*22*24、 P17:27*25*26、P18:23*20*20、 P19:39*35*22、P20:39*(33)*40、 P21:33*30*26、P22:47*39*25、 P23:31*24*17、P24:20*17*26、 P25:13*12*28、P26:22*15*16	文化層は草 創期2、石器 集中との重なりはなし。 小穴は竪穴 状遺構内の 覆土より後出 の可能性有る が、Ⅶ層土の 小穴内の流入 を考えると、 時期的な懸隔 を唱道する根拠 は乏しくなる。

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	深 さ	炉 址	柱 穴	柱 穴 数	柱 穴 規 模	備 考
111	南鍛冶山	漸移層下層	縄	1号住居状遺構	3.30	2.80	0.17	無	有	3	[長軸*短軸*深さ、単位はcm] P1:12*11*20、 P2:12*11*11(推定値)、 P3:13*10*26、 柱の立ち上がりはほぼ直立。上部構造、棟木に垂木を渡す構造を想定。 P2は掘り直されている。	
111	南鍛冶山	漸移層上層	縄	2号住居状遺構	3.40	3.00	0.07～0.13	有 (炉址状の落ち込みと記載)	有	5	[長軸*短軸*深さ、単位はcm] P1:30*26*11、P2:26*25*9、 P3:20*19*9、P4:30*26*11、 P5:22*20*13、 柱の立ち上がりはほぼ直立。上部構造、棟木に垂木を渡す構造を想定。	遺物:隆線紋土器9点
118	慶應義塾 湘南藤沢 キャンパス内 Ⅱ区	LISU	縄	住居状遺構	6.92	6.32	0.03～0.04	有	有	9 (12)	[長軸*短軸*深さ、単位はcm] P1:53*41*47、P2:50*48*56、 P3:52*47*42(下部に竹根の攪乱)、 P4:37*32*31、P5:48*39*53、 P6:46*44*50、P7:46*41*35、 P8:41*40*34、P9:40*38*34、 P10:(P10～12は住居遺構との関連は薄い)、P11:32*32*13、 P12:25*25*13	ビートの間隔から住居入り口は南西部(斜面方向)であった可能性を指摘。

第6表 土 坑

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	深 さ	平 面 形 態	断 面 形 態	備 考
74	柏ヶ谷長ヲサ	LIS	I b	土坑 1	1.26	0.90	0.38	楕円形	浅鉢状	石器集中と重なりなし
74	柏ヶ谷長ヲサ	LIS	I b	土坑 2	1.05	0.50	0.35	楕円形	碗状	石器集中と重なりなし
99	早川天神森	LISUU	I	土坑	2.00	1.00	0.04 ～ 0.14	不整形	皿状	炭化材を伴う
100	吉岡 A区	漸移層	—	1号土坑	1.20	0.65	0.50	長楕円形	乳房状	文化層はLIS層、石器集中との重なりはなし、坑底はB0上部
100	吉岡 A区	漸移層	—	2号土坑	0.45	0.35	0.60	長楕円形	柱穴状	文化層はLIS層、石器集中との重なりはなし、坑底はB0上部
100	吉岡 A区	漸移層	—	3号土坑	0.25	0.18	0.15	楕円形	浅い柱穴状	文化層はLIS層、石器集中との重なりはなし、坑底はB0上部
101	吉岡 B区	FB～ LIS	—	土坑	0.50	0.50	0.20	円形	皿状	文化層は草創期2、槍先形尖頭器石器群と重なる、吉岡ⅢでJ2号土坑とされていた、覆土は漸移層主体
103	吉岡 D区	FBL	—	埋納遺構 下部土坑	1.34	0.53	0.20	長楕円形	バケツ状で柱穴部落ち込み	文化層は草創期、覆土上層で礫斧と礫器が出土、柱穴をとまう。
109	代官山	漸移層 L	I	土坑	0.80	—	—	いびつな円形	乳房状	開口部の直径80cm、坑底の長径40cm：短径30cm 遺物349点、器種：槍、有舌、搔器、礫器、RF、UF、剥片、碎片、残核、石材：安、粘、チ、黒、凝、珪頁、砂
116	南葛野	漸移層 L	縄	1号土坑	0.71	0.59	0.32	楕円形	たらい状	
116	南葛野	漸移層	縄	2号土坑	1.00	0.61	0.18	不整楕円形	皿状	
166	三ノ宮・下谷戸 (No.14)	漸移層 UU	I	土坑	2.85	2.21	1.18	楕円形	すり鉢	3404点、有舌尖頭器35、有舌尖頭器未製品5、槍先形尖頭器5、尖頭器未製品1、石鏃1、楔形石器1、加工痕の見られる剥片17、使用痕のある剥片5、礫11、剥片類3314、残核1、台石1、無紋土器5 “坑底から約15cmの高さで滑り面が確認され、この滑り面を境に遺構の上部と下部が主として南西方向に約10cmずれている。”

第7表 ピット

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺構名	長 軸	短 軸	深 さ	平 面 形 態	断 面 形 態	備 考
60	上溝6丁目	BB0U	—	柱穴	0.35	0.20	0.18	楕円形	逆台形	ピットは1穴のみ
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P1	0.26	0.23	0.32	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P2	0.30	0.28	0.39	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P3	0.34	0.28	0.56	楕円形	長方形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P4	0.40	0.39	0.21	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P5	0.40	0.39	0.48	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P6	0.35	0.32	0.32	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P7	0.32	0.28	0.21	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P8	0.21	0.20	0.16	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P9	0.22	0.19	0.14	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P10	0.26	0.23	0.45	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P11	0.27	0.24	0.18	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P12	0.19	0.18	0.20	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P13	0.35	0.33	0.20	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P14	0.40	0.36	0.46	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P15	0.39	0.35	0.20	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P16	0.40	0.34	0.30	円形	U字形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P17	0.20	0.19	0.19	円形	U字形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P18	0.23	0.20	0.20	円形	U字形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P19	0.39	0.35	0.22	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P20	0.34	0.28	0.14	円形	U字形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P21	0.34	0.32	0.23	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P22	0.32	0.27	0.25	円形	U字形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P23	0.27	0.25	0.18	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P24	0.45	0.38	0.49	円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P25	0.37	0.32	0.40	楕円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
100	吉岡 A区	FB～L1S	—	小穴群 P26	0.37	0.23	0.26	楕円形	逆台形	文化層は草創期2、石器集中との重なりはなし。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.306	0.15	0.14	0.08	正円	碗形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.307	0.20	0.20	0.16	隅丸 方形	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.308	0.16	0.14	0.09	正円	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.309	0.18	0.16	0.19	正円	逆台形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.310	0.31	0.30	0.15	正円	鍋底形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I区	L1SUU	縄	No.311	0.13	0.10	0.07	正円	U字形	覆土は漸移層。

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	深 さ	平 面 形 態	断 面 形 態	備 考
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.312	0.42	0.30	0.41	楕円形	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.313	0.24	0.22	0.25	円形	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.315	0.30	0.29	0.08	円形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.407	0.36	0.32	0.24	円形	椀形	覆土は漸移層。土器(その他の個体No.11出土。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.408	0.38	0.36	0.17	隅丸 方形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.409	0.29	0.28	0.12	隅丸 方形	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.411	0.45	0.28	0.12	楕円形	皿形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.412	0.25	0.19	0.13	円形	U字形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.418	0.28	0.21	0.14	円形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.419	0.31	0.27	0.12	楕円形	逆台形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.420	0.26	0.21	0.11	円形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.421	0.33	0.28	0.13	円形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.422	0.28	0.26	0.09	円形	皿形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.423	0.32	0.22	0.35	楕円形	椀形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 I 区	LISUU	縄	No.344	0.37	0.36	0.27	円形	逆台形	覆土は漸移層。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 III区	*	縄	*	*	*	*	*	*	*縄文時代早期以降のビットが混じっている可能性有り。
118	慶應義塾湘南藤沢 キャンパス内 V区	漸移層と L1S境	縄	ビット	0.57	0.46	0.23	円形	逆台形	道路幅での調査のため、周辺にビット群を成すかは判断できない。

第8表 デ ポ

遺跡 No.	遺 跡 名	確 認 層 位	文 化 層	遺 構 名	長 軸	短 軸	遺 物 数	分布 状態	遺物の 様 相	石 材 組 成	備 考
116	南葛野	LIS	縄	デポ	0.42	0.15	3	集中		頁のみ。全て石核	遺物数：3点 器種：石核3、石材：頁岩3
103	吉岡 D区	FBL	—	埋納遺構	0.22	0.20	2	密集	扁平な 河原石	凝角礫1, 閃1	文化層は草創期、下部土坑をとまう 河原石の下約2cmからホルンフェルス製の 礫斧と礫器が出土、さらにその周辺部から は礫器と打製石斧が出土

※紙面の都合上、第1～8表において石材名称を略表記した。以下の対照表を参照されたい。(順不同)

砂：砂岩、 泥：泥岩、 礫：礫岩、 頁：頁岩、 硬砂：硬質砂岩、 粘：粘板岩、 角閃安：角閃安山岩、
砂礫：砂礫岩、 角礫：角礫岩、 ひん：ひん岩、 閃ひん：閃緑ひん岩、 珪頁：珪頁岩、 チ：チャート、
凝砂：凝灰質砂岩、 凝頁：凝灰質頁岩、 凝角礫：凝灰角礫岩、 珪：珪岩、 珪泥：珪質泥岩、 玄：玄武岩
凝：凝灰岩、 粗凝：粗粒凝灰岩、 中凝：中粒凝灰岩、 細凝：細粒凝灰岩、 シルト：シルト岩、
硬中凝：硬質中粒凝灰岩、 硬細凝：硬質細粒凝灰岩、 火山凝：火山礫凝灰岩、 閃：閃緑岩、
ホ：ホルンフェルス、 流：流紋岩、 石閃：石英閃緑岩、 黒雲母安：黒雲母安山岩、 斑：斑礫岩、
安：安山岩、 ガラス黒安：ガラス質黒色安山岩、 輝：輝緑岩